

地域での取組のヒント



地域での取組を広げるために…

- ・子ども向けの指導や働きかけに終始しない
→大人に変化を求める前提で組み立てることが大切です。
- ・「地域総がかり」を前提に行動計画を立案しない
→学習(参加)意欲差があることを前提に、伝え方を組み立てることが大切です。
- ・ネット利用に関わるすべての問題を取組対象にしない
→解決すべき問題は減らして組み立てることが大切です。
- ・地域の統一ルールなど、目に見える成果を優先させない
→建前と本音にずれが生じやすい「ルール」にこだわり過ぎないことが大切です。
- ・全く新しい実行チームを組織する
→既存のチームを生かして素早く動くことが大切です。
- ・自治体職員や学校教員が教材などを一から自作しない
→既存のものから選択し組み合わせることが大切です。
- ・お手本になるような他地域の成功事例をそのまま導入しない
→取組のプロセス自体を大切にを進めることが大切です。

どの地域にも様々な人的資源がある…「活用とネットワーク」が大切

- ・教職員、養護教諭、保育士、保健師、スクールカウンセラー
…子どもへの働きかけ、家庭への発信や支援 等
- ・保護者 …家庭での取組と記録、周囲との悩み共有、経験の共有 等
- ・P T A …大人の学習機会の創出、統計づくり、事例の発掘と共有 等
- ・行政職員 …学校・社会教育、地域連携、公民館・図書館、産業振興 等
- ・その他の組織 …家庭教育支援チーム、消費者相談員、児童委員、青年会議所、ロータリークラブ、地元IT企業、子育て支援NPO 等

身近な第一歩の踏み出し方

- ・「年一回の講演会」よりも「毎月どこかでミニ学習会」
…講師よりもコーディネーターの充実が重要
- ・「ネットの安全を学習」よりも「関連テーマを学習」
…[関連テーマ]
行動の習慣化、睡眠の最新知識、子どもの発達、上手なコミュニケーション、人間の心理の特性、SNS発信を意識した写真や動画の撮り方、文章の書き方 等
- ・「専門講座の開催」よりも「既存の枠組みでの取り上げ」
…家庭教育学級、地域生徒指導研究推進協議会 等
- ・「互いの姿が見えにくい」よりも「状況や取組を共有・可視化」
…実践事例の共有、困った時の相談先、「少しネットに詳しい」大人のネットワーク